

# 学術研究推進助成実績報告書(中間)

平成26年9月13日

公財岡山工学振興会

代表理事 小西 忠孝 殿

(所属機関名) 岡山大学異分野融合先端研究コア

(申請者名) 仁科 勇太



※研究期間に応じ、報告書の中間・完了のいずれか該当のものを○で囲ってください。

研究題目	ハロゲン化触媒の研究開発	
研究期間	2012年12月～2014年9月	
共同研究者	氏名	所属機関(職名)
研究題目についての研究発表	発表した学協会名と期日	発表した会誌等
	1. 日本化学会第93春季年会, 平成25年3月25日	1. Y. Nishina, B. Ohtani, K. Kikushima, <i>Beilstein J. Org. Chem.</i> 2013, 9, 1663. 2. K. Kikushima, Y. Nishina, <i>RSC Adv.</i> 2013, 3, 20150.
研究概要	<p>銅および臭化水素酸触媒、分子状酸素を用いた2-シクロヘキセン-1-オン誘導体の酸化的芳香族化によるフェノール誘導体の合成法を開発した。反応条件を変えることでフェノールとブロモフェノールを作り分けることが可能である(式a, b)。本反応システムは、種々のシクロヘキセノン誘導体に対しても有効であり、対応するフェノール誘導体をそれぞれ高収率で与えた。また、光照射により、四臭化炭素から臭素を発生させることで、炭化水素の臭素化反応を達成することもできた(式c)。</p>	